

令和元年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）  
分担研究報告書

慢性疼痛診療システムの均てん化と  
痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究分担者 杉浦 健之 名古屋市立大学大学院医学研究科 教授

研究要旨

慢性痛患者の中でも診療施設に通院できない在宅の患者における痛み治療の問題点を取り上げ、有効な対策を考える必要がある。愛知県で在宅医療を行っており、痛み診療に興味のある16施設の在宅診療医にアンケート調査を行った。2065名の患者中、15.8%が慢性痛を患っており、慢性一次性疼痛、慢性二次性筋骨格痛が多かった。在宅では十分な痛みの検査・評価ができないと考える医師が多いことが明らかとなった。在宅医療における慢性痛患者の割合は、過小評価されている可能性がある。意思疎通が困難な患者や、患家が診療の場となる特性上、痛みの原因や評価が不十分であることが理由の一つと考えられた。治療法にも限りがあり、集学的治療に繋げるシステムの構築も必要だと考えられる。

A．研究目的

愛知県痛み診療ネットワークでは、愛知県内における慢性疼痛患者の診療に携わる医療従事者を中心に、医療従事者同士の円滑な診療ネットワークを構築する「実臨床としての連携」と、同時に慢性痛医療についての知識や経験を広く共有する教育を行っていく「医療従事者の教育」の2つを柱として、プライマリケア医と慢性痛の専門機関の緊密な連携を築き、痛みを苦しむ慢性痛患者のさらなるQOL向上を目指している。慢性痛患者の中でもペインクリニックや痛み診療施設に通院できない在宅の患者における痛み治療の問題点を取り上げ、愛知県痛み診療ネットワーク内で共有し、有効な対策を考える必要がある。そこで、在宅医療を受ける患者の慢性痛について問題点を明らかにすることを研究目的とする。

B．研究方法

愛知県で在宅医療を行っており、痛み診療に興味のある16施設の在宅診療医にアンケート調査を行った。アンケート内容は以下の5項目とした。

- Q1 在宅診療患者数
- Q2 鎮痛薬を処方している患者数
- Q3 慢性痛患者数
- Q4 慢性痛診断
- Q5 在宅慢性痛患者の問題点・有効な対策

（倫理面への配慮）

臨床研究において介入はなく、また個人情報 は取り扱う研究ではない。

C．研究結果

16施設中9施設、の医師から回答を得た。合計2065名の患者中、15.8%が慢性痛を患っており、ICD-11分類では慢性一次性疼痛(25%)、慢性二次性筋骨格痛(25%)、慢性神経障害性疼痛(22%)が多かった。在宅では十分な痛みの検査・評価ができないと考える医師が多いことが明らかとなった。また、薬物療法、神経ブロックが時に有効だが、一方で神経ブロックは体位や時間的制限・副作用のため困難との記載もあった。

D．考察

在宅医療における慢性痛患者の割合は、本邦で一般生活者に対し行われた調査と同程度であり、過小評価されている可能性がある。意思疎通が困難な患者や、患家が診療の場となる特性上、痛みの原因や評価が不十分であることが理由の一つと考えられた。治療法にも限りがあり、集学的治療に繋げるシステムの構築も必要だと考えられる。

E．結論

現在の診療体制における在宅医療では、慢性痛の評価が容易ではないことと、治療上の限界が明らかになった。

## F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) 太田晴子、杉浦健之、酒井美枝、近藤真前 一次性慢性痛における心理社会的要因の検討～社会資源の活用に向けて、慢性疼痛 38(1):84-89. 2019
- 2) 慢性疼痛患者の生きる力を支える人材育成と診療体制構築 杉浦健之、酒井美枝、近藤真前、小川 成、水谷 潤、祖父江和哉、明智龍男 日本運動器疼痛学会誌 2019;11(3): 257-263

### 2. 学会発表

- 1) 慢性疼痛に対する集団アクセプタンス&コミットメント・セラピーの予備的検討 酒井美枝、近藤真前、杉浦健之、武藤 崇 第 48 回日本慢性疼痛学会一般演題口演（岐阜：じゅうろくプラザ、2019.2.15-16.）
- 2) 一次性慢性痛における心理社会的要因の検討～社会資源の活用に向けて 太田晴子、杉浦健之、酒井美枝、近藤真前 第 48 回日本慢性疼痛学会 一般演題口演（岐阜：じゅうろくプラザ、2019.2.15-16.）
- 3) 学際的治療の自己中断で CRPS 症状が進行した ADHD の 1 例 加藤利奈、杉浦健之、草間宣好、徐 民恵、加古英介、太田晴子、井口 広靖、藤掛数馬、薊 隆文、祖父江和哉 東海・北陸ペインクリニック学会第 30 回東海地方会（愛知：ウインクあいち、2019.5.11.）
- 4) 高齢の帯状疱疹後神経痛患者に対するアクセプタンス&コミットメント・セラピー 酒井美枝、井口広靖、藤掛数馬、加藤利奈、太田晴子、徐民恵、草間 宣好、加古英介、近藤真前、杉浦健之 東海・北陸ペインクリニック学会 第 30 回東海地方会（愛知：ウインクあいち、2019.5.11.）
- 5) 心理社会要因が関与して発症した慢性疼痛に漢方治療が有効であった一例 加藤利奈、杉浦健之 第 32 回疼痛漢方研究会学術集会（東京：ベルサール汐留、2019.7.6.）
- 6) 通院歴の長い高齢の慢性疼痛患者に対するアクセプタンス&コミットメント・

セラピー 酒井美枝、浅井明倫、近藤真前、杉浦健之 第 41 回日本疼痛学会（名古屋：名古屋国際会議場、2019.7.12.）

- 7) カダバーを用いた透視下神経ブロックハンズオンワークショップの導入課題 藤掛数馬、太田晴子、井口広靖、加藤利奈、加古英介、徐 民恵、草間宣好、薊 隆文、杉浦健之、祖父江和哉 日本ペインクリニック学会第 53 回大会（熊本：熊本県立劇場、2019.7.18-20.）
- 8) 硬膜外鎮痛が全身状態の改善に寄与した心肺蘇生後多発肋骨骨折の一例 川津文子、徐 民恵、藤掛数馬、加藤利奈、井口広靖、太田晴子、加古英介、草間宣好、杉浦健之、祖父江和哉 日本ペインクリニック学会第 53 回大会（熊本：熊本県立劇場、2019.7.18-20.）
- 9) 慢性膵炎による難治性腹痛にプレガバリンが有効であった一症例 草間宣好、杉浦健之、藤掛数馬、加藤利奈、井口広靖、徐 民恵、薊 隆文、祖父江和哉 日本ペインクリニック学会第 53 回大会（熊本：熊本県立劇場、2019.7.18-20.）
- 10) 集学的治療の一環としてアクセプタンス&コミットメント・セラピーを行い、就労につながった慢性腰痛の一症例 酒井美枝・水谷 潤・吉戸菜摘・近藤真前・杉浦健之 第 12 回日本運動器疼痛学会 一般演題口演（東京：六本木ヒルズ森タワー、2019.11.30-12.1. 発表 30）
- 11) 下肢の慢性痛と痺れに対して脊髄刺激トリアルを行なった末梢性ニューロパチーの症例 杉浦健之、太田晴子、酒井美枝、近藤真前 第 49 回日本慢性疼痛学会（東京：ソラシティカンファレンスセンター、2020.2.28-29.）

## H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし